

茨城大学同窓会連合会会報

2014.3
第8号



耐震改修を終えた事務局管理棟



寄付により完成した小平記念ホール

茨城大学卒業生の皆様へ



茨城大学同窓会連合会会長
臼井 敏雄

本会は茨城大学の全学部の同窓会と地域や職域の同窓会が連携・交流することにより、全員が茨城大学の卒業生であることに誇りと自覚を持ち、しいては茨城大学の発展に寄与することを目的としております。日頃より会の運営にご支援いただいております関係者の皆様にご心からお礼を申し上げます。

昔の大学は先生の研究と学生の教育が全てでしたが、今では文部科学省による「国立大学法人化」や「大学改革実行プラン」等で大学のあり方が見直される一方で、グローバル化の進展で諸外国の大学と競合する場面も出て来ている状況にあります。いまや大学にも総合力が要求される時代と言えます。

現在茨城大学では地域振興と社会貢献を重視した明解な方針を掲げて各種の施策を展開中であります。これらをより具体化して行く段階では卒業生が係わる機会も数多くあるのではないかと思います。

従来ややもすると卒業後の大学は思い出の場所だけになりがちですが、これからは卒業生の皆さんも卒業後の貴重なご経験を大学の施策実行の中のいろいろな場面で生かしていただきたくお願い致します。またご提言などお寄せいただければ有り難いです。そのために必要な大学側との情報交換について本会がその橋渡し役になれば嬉しい限りであります。

引き続き会員皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

引き続き会員皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

大学から一同窓会との連携強化を目指して



茨城大学理事(総務・財務担当)
前田 克彦

茨城大学同窓会会員の皆様には日頃より茨城大学のために多大なるご支援を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。

「大学は国力そのものです。大学の強化なくして我が国の発展はありません。」これは、平成25年2月の通常国会安倍総理施政方針演説の一部です。現在、国立大学が社会の期待に応えるための機能強化のための様々な方策が示されています。茨城大学は、地域のニーズに応じた人材育成拠点、地域社会のシンクタンクとして様々な課題を解決する拠点など、特に地域活性化の中核的拠点として機能強化を図っているところです。教育の面においては、学生を徹底的に鍛え上げ、社会に有意な人材として輩出する必要があります。そのため、例えば、地域と連携したプロジェクト学習、インターン等現場での体験を通じた課題解決能力を育成するため、幅広いネットワークを有している同窓会との連携を通じて、このような活動を強化していくことも望まれます。

大学は同窓会に何を期待し、同窓会の皆様からは同窓会の充実のために大学にどのようなことを期待しているかなど、同窓会と大学とのコミュニケーションを密にして、今後とも同窓会との緊密な連携強化を目指していきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

同窓会交流コーナー

文理・人文学部同窓会の近況報告

文理・人文学部同窓会会長 土田 惣一



平成25年度は、総会のない年です。理事会のみの開催となり、7月7日に理事約40名の出席のもと、各人からスピーチを貰いながら、理事相互の親睦交流を大いに図ったところでありました。

職域・地域支部として位置づけています①県庁茨大同窓会（学部横断）が、7月4日に約280名の参加のもと、②常陽銀行の常陽茨苑会（学部横断）が、7月13日に約60名の参加のもと、③県南同窓会（学部横断）が、7月27日に農学部こぶし会館で約40名の参加のもと、④在京の水交会が、9月14日にサンケイホールで約180名の参加の

もと、夫々総会が開かれ、講演やら、新規会員の紹介、各人の近況報告などで、先輩後輩間の交流が賑やかな雰囲気の中で執り行われました。

また、学生支援として、平成19年度から行っております人文学部と茨城県経営者協会との共催で、「働く意義・学ぶ意味」をテーマに後期講座「地域連携論」を開講しました。

その講座の中間の11月13日には公開シンポジウムを開き、4年次生による「学生生活と就職活動」のプレゼン、企業役員の講演、常陽銀行・ケースホールディングス・カスミの人事担当者による「就職模擬面接」を行い、学生の就職促進を支援したところでございます。

教育学部同窓会の近況

教育学部同窓会副会長 平山 文夫

同窓会の運営については、総会は2年に一度開催（総会のない年は、代議員会を開催）しています。平成25年度は、茨城大学教育学部附属小学校（事業部担当）において総会を開催しました。席上、茨城大学教育学部に長年勤務され、定年退職された先生方（平成23年度4名・平成24年度6名）に記念品を贈り、祝賀会を開催しました。

会報は、特集を組み、毎年12月に発行しています。本年度は第46号の発行となりました。前年度、第45号の特集は「豊かな心で生きる」でした。本年度第46号は「今求められる学力」という特集を組みました。以下3視点からの主張です。

- ・より一層の「生きる力」の育成を
- ・オリンピックの招致一プレゼンテーションと英語教育から考える一
- ・小中一貫における確かな学力の育成

同窓会の運営については、行政経験の豊富な会長（堀川賢壽）の時宜を得た指導を受け、円滑に進められています。同窓会報を基に、「問題の重要性を認識して運営するように」「具体的かつ明確な方策をもって、対応するように」と、常に激励されています。若い教師にとって刺激になり、励みとなっています。

お互い「正しさの内容」を吟味し、国際社会における日本の将来に貢献できる人間育成に努めなければの想いで語り合っています。

顕彰事項としては、教育学部同窓会参与・茨城大学名誉教授の後藤末吉氏が瑞宝中綬章を受章されたことです。



後藤末吉氏製作「覇者」

理学部同窓会の活動と会報の発行

理学部同窓会常任幹事 鈴木 忠和

理学部同窓会の活動の中で大切なもののひとつに毎年発行される会報があります。B5版で50ページ程度のもので、内容に富み、とくに近年は在学生からの投稿も増えてきて、文字通り在学生を含む同窓会会員の意思の疎通を図るには欠かせないものになっています。最新号の16号を見てみると、物理学コース、化学コース、地球環境科学コース、学際理学コース、数学・情報数理コース、生物科学コースの在学生から各1篇が寄稿されていて、在学生からの投稿が増えてきた背景には、常任幹事会の中に設けられた在学生との交流推進委員会の長年にわたる努力があります。これらの投稿文を読むと在学生の学生生活の現状、将来に対する期待、そして大学に対する思いが伝わってきます。また、一般投稿では大学を卒業して社会人となった同窓生から仕事の

紹介、社会、大学への期待が寄せられ、在学生にとっても示唆に富んだものになっています。各号の巻末には「フォトアルバム」と題して会員から寄せられる趣味、観光などの他、学内の写真が載せられていて、16号には現在改修中の理学部G棟の写真が掲載され、同窓生にとっては大学の現状を知る貴重な情報になるものと思われま。

わずかに50ページ程度の小冊子ですが、在学生の思い、卒業した同窓生の思いがあふれる会報は今後とも会員同士のコミュニケーションの場となり、同窓会活動を支える貴重な冊子として3000人を超える同窓生に届けられて行くことでしょう。



改修された理学部G棟

工学部同窓会の近況

多賀工業会副会長 舛井 正義



多賀工業会は昭和16年12月多賀高等工業学校卒業生を送り出してから、今年度の卒業生で構成する同窓会の組織です。卒業生は33,000名を超えました。工学部の一角に同窓会事務局を置き、全国に14支部あります。本部の活動

は、在学生や卒業生への入会勧誘、会報発行、名簿管理（4年に1回名簿発行）、14支部活動の支援、本部と支部の交流活動、茨城大学の情報提供、こうがく祭や学生生活への資金援助、優秀学生の表彰な

どたくさんの活動を行っております。総会は2年に一度開かれます。役員改選、収支報告のほか、講演や懇親会が行われます。遠方支部からの参加もあり、有意義な交流や情報交換の場となっております。

各支部も年1回の総会のほか、独自の行事（ゴルフ会、写真クラブ、近隣の名所見学、講演会、企業見学）を行うとともに、近隣支部との相互交流も行っております。

卒業生による工学部内での“特別講演”を通じて在学生への啓蒙活動も行っております。

農学部同窓会（阿見キャンパス）から

農学部同窓会幹事長 黒田 久雄

茨城大学農学部の卒業生は現在7,200名程度となっています。最も大きな事業は、5年ごとの名簿発行です。2014年4月の発行を目指して、今まさに作業を行っているところです。会員数が多くなってきたため、業者さんと発行の作業を行っています。個人情報の取り扱いには細心の注意を払っています。そのため名簿を購入されていない卒業生からの問い合わせには答えられないこともあります。ご容赦のほどお願いします。

平成25年度には、学部長が先頭に立って第2回ホームカミングデーを秋耕祭の日に行いました。社会で活躍している先輩の講演や学生との交流を通して農学部への激励を受けました。社会人と学生がお

互いに切磋琢磨できる農学部になれるのではないかと期待しています。

また、農学部は、県南の阿見町にあるため、毎年県南同窓会の総会会場となっています。農学部以外の同窓生も来キャンパスの機会があります。阿見キャンパス一帯は植栽が豊かで、季節ごとに異なった景色を作り出します。特に桜の季節は、県道は桜のトンネルとなり、阿見キャンパス内にも多くの品種の桜の花を觀賞できます。農学部の卒業生以外の方も是非訪問してください。



大学トピックス

社会・地域連携の新しい学内組織について

茨城大学理事・副学長(学術) 神永 文人



同窓会会員の皆様には日頃より茨城大学の教育と研究の発展のために多大なるご支援を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。

最近では、特に地方大学には「地域の知の拠点」の役割が求められ、社会貢献も教育と研究に加え重要な活動となってきました。この社会貢献に関しては、おかげさまで、茨城大学は良い評価を得ています。例えば、昨年11月公表された、日本経済新聞系列の雑誌である日経グローバルの平成25年度の地域貢献度ランキングにおいて、国公立大学526校中、総合3位の高い評価を受けています。

ただ、これらの評価に喜んでばかりはおられず、茨城大学の目標である「地域に支えられ、地域に頼りにされる大学」の実現にさらに近づくためには、

社会や地域の課題に対して、大学が一体となり組織的に対応する必要性が増しています。

このような背景から、社会・地域連携の高度化と活性化を目指して、産学官連携を管理運営する産官学連携イノベーション創成機構、地域の社会的課題を研究する地域総合研究所、学生と教員の地域活動を支援する地域連携推進本部、社会人教育の場を提供する生涯学習教育研究センターの4つの現在の学内組織を統合した社会連携センターを設置したところです。その組織では、茨城大学の社会・地域連携の窓口と活動の企画・管理・運営の拠点となるとともにワンストップサービス化と活動情報集約の機能の充実を図っていく計画です。本学の社会・地域連携に関して、今後皆様のご助力をお願いする機会があるかもしれませんので、その折には、ご協力ご支援宜しく願いいたします。

第8回総会及び懇親会を開催

平成25年10月5日(土)、茨城大学茨苑会館において第8回総会が開催されました。総会は、臼井敏雄会長の挨拶に始まり、「平成24年度事業及び会計報告」及び「平成25年度事業計画及び予算」の2件の議事が諮られ、大貫仁代表幹事及び事務局から説明があり、審議の結果、満場一致で承認されました。また、各学部同窓会からそれぞれ活動報告がありました。

総会後には、会場を茨苑会館「レストランSHIEN」に移して懇親会が開催され、連合会、各学部同窓会、職域・地域同窓会及び茨城大学関係者、総勢42名が

出席しました。まず臼井会長及び池田幸雄学長から挨拶があり、影山俊男理事の発声による乾杯の後、神永文人副学長からの大学の近況報告、並びに各職域・地域同窓会からの活動報告などがありました。参加者は各々近況を語り合ったり、情報交換を図るなど終始和やかに歓談し、最後は参加者全員で校歌を斉唱し、同窓会と大学のより緊密な関係の構築を誓って、盛会のうちに閉会となりました。



平成24年度 (H24. 10. 1~H25. 9. 30) 事業報告・収支決算

年月日	事業	摘要
H24/10/6	第7回総会・懇親会	○平成23年度事業及び会計報告について ○平成24年度事業計画及び予算について ○平成24・25年度役員について
H24/11/27	第22回幹事会	○会報(第7号)の発行について ○第7回総会報告について
H25/1/28	「茨城大学社会連携事業会」へ寄付	5万円を寄贈
H25/3/1	会報「第7号」発行	発行部数:5,500部
H25/6/5	第23回幹事会	○事業活動について
H25/7/18	茨城大学役員との懇談会	○大学に係る近況報告等について ○各同窓会からの近況報告・要望等について
H25/7/18	第24回幹事会	○第8回総会・懇親会について ○平成24年度事業・会計報告(案)及び平成25年度事業計画・予算(案)について
H25/10/5	第25回幹事会	○平成24年度事業及び会計報告について ○平成25年度事業計画及び予算について

収入		支出		摘要
事項	決算額	事項	決算額	
1 繰越金	円 1,038,243	1 管理費 (1)通信費 (2)印刷費 (3)事務費	円 8,250 116,025 0	会報郵送料、総会案内発送、等 会報(第7号)5,500部 消耗品等
2 会費 (同窓会連合会費 @5万円×5学部同窓会)	250,000	2 事業費 (1)会議費	119,815	第7回懇親会経費
3 事業費 (第7回懇親会費)	99,000	(2)交際費 (3)寄附金	50,655 20,315 50,000	大学役員との懇談会経費 県庁同窓会総会参加費等 茨城大学社会連携事業会への寄付
4 預金利息	165	3 予備費	0	
合計	1,387,408	合計	365,060	

差引残額[収入]1,387,408円-[支出]365,060円=[残額]1,022,348円(平成25年度へ繰越)

平成25年度 (H25. 10. 1~H26. 9. 30) 事業計画・予算

年月日	事業	摘要
H25/10/5	第8回総会・懇親会	○平成24年度事業及び会計報告について ○平成25年度事業計画及び予算について
H25/12/6	第26回幹事会	○会報(第8号)の発行について ○第8回総会報告について
H25/12/17	「茨城大学社会連携事業会」へ寄付	5万円を寄贈
H26/3/1	会報「第8号」発行	
H26/6/	第27回幹事会	
H26/7/	茨城大学役員との懇談会	
H26/7/	第28回幹事会	
H26/10/4	第29回幹事会	

* H26/10/4 第9回総会・懇親会(予定)

収入		支出		摘要
事項	予算額	事項	予算額	
1 前年度繰越金	円 1,022,348	1 管理費 (1)通信費 (2)印刷費 (3)事務費	円 10,000 120,000 10,000	郵送代等 会報(第8号)5,500部 消耗品等
2 会費 (同窓会連合会費 @5万円×5学部同窓会)	250,000	2 事業費 (1)会議費	180,000	懇談会・懇親会等経費
3 事業費 (第8回懇親会費)	120,000	(2)交際費 (3)寄附金	30,000 50,000 992,548	職域・地域同窓会総会参加費等 茨城大学社会連携事業会への寄付
4 預金利息	200	3 予備費		
合計	1,392,548	合計	1,392,548	

茨城大学同窓会連合会役員

名誉会長 池田幸雄(茨城大学長)
顧問 田代尚弘(茨城大学理事・副学長)
顧問 神永文人(茨城大学理事・副学長)
会長 臼井敏雄(多賀工業会顧問)
副会長 土田惣一(文理・人文学部同窓会会長)
副会長 堀川賢壽(教育学部同窓会会長)
副会長 久保田益充(理学部同窓会会長)
副会長 赤塚尹巳(農学部同窓会会長)

代表幹事 大貫仁(多賀工業会理事、幹事長)
幹事 糟谷政和(文理・人文学部同窓会幹事長)
幹事 佐藤瑛一(教育学部同窓会幹事長)
幹事 山村靖夫(理学部同窓会常任幹事)
幹事 栗原和美(多賀工業会理事)
幹事 黒田久雄(農学部同窓会幹事長)
会計監事 長谷川守文(農学部同窓会幹事)
会計監事 佐久間隆(理学部同窓会常任幹事)

編集後記

国立大学の運営が大変厳しくなっております。国の交付金が年々減少していく中で、補填するための学術振興会及び文部科学省の科研費等、外部資金獲得競争がし烈になっています。科研費は、数百万円から数億円まであり、大学の貴重な収入源で、知名度を高める大きな手段となっています。獲得額の増大を目指して、本学でも真剣に取り組んでおります

が、他大でも同様に努力しているため、非常に厳しい状況にあります。独創的先端研究を行うことは勿論、外部資金獲得額を増やすための新たな方策の導入が必要と考えます。茨城大学の地位向上と有為の人材を輩出するため、同窓生の皆様にはご指導とご協力をお願い致します。

(代表幹事 大貫 仁)

茨城大学同窓会連合会事務局
(茨城大学総務課内)

〒310-8512 水戸市文京2-1-1
電話:029-228-8007 FAX:029-228-8019

茨城大学HP

<http://www.ibaraki.ac.jp/>

茨城大学同窓会連合会HP

<http://www.ibaraki.ac.jp/generalinfo/alumnus/union/>